

好かれる≠儲かる

本誌昨年12月号とNHK「日本の、これから」の生放送で完全に相手を舐めきった態度に2ちゃんねるを始め、地元のみならず多くの視聴者から反感を買った宮井能雅が嫌われ方の本髄を語ることになった。よろしくお付き合い願いたい。

さて件のNHKの生放送終了後、北海道に帰り、まず愛する奥様から言われた言葉は「バカじゃない?」そして「よく刺されないで帰って来たわね?」。ん〜ん、**愛を感じた**瞬間であった。その後、地域の集まりがあり、私は飲まないが酒が入り、本音トークが始まった。

要約すると以下のようなものだ。

①あなたの発言は北海道の転作農家はみんな豊かなイメージを持つ②あんなだけ(従兄弟も含む)が儲かれば良いのか?③地元長沼町の恥だ!④地元JAに苦情の電話が来た(2〜3本程度だろう)⑤あんな放送をするNHKの良識が疑われる。

最後はだからあなたは嫌われる!と来たもんだ。つまり農協批判はムダと事前に連絡済だが、組合長はなぜかムツとした顔をしていた。

歴史をたどれば、村八分という言葉がある。調べてみると、火事になった時と、葬式の時以外は付き合い

をしないという意味だ。

逆に取れば火事になった時と、葬式の時へルプがあると理解できる。何とすばらしい考え方ではないか。すべてが否定される社会よりはサバサバした人間的な付き合いができるのである。どちらにしても、儲かる農家になるかどうかは村八分に含まれない。

なぜ嫌われるのか? 心理学的に言うとなんか嫌われることにメリットがある。潜在的意識があり、現実の行動に移す

ことにより、その正当性が認められた経験がその行動(嫌われ方)を増幅させると自己評価している。私は農業の現場において、話すこと、行動すること、利益を相手に与えること、360HPのコンバイン、160HPの飛行機に乗ることさえ嫌われている。しかし、なぜそこまで? 私は物心ついた頃から、人とは同じことをやってはいけなさと感じていた。「人と同じことをやれ!」とは教育を受けていないせいかもしれない。同じことをやっていけば、同じ結果、つまり同じ収入、同じ環境、

嫌われ上等!

Vol.1



Illustration by Kazushige Akita

自分と同じ程度の子供が生まれ育っていくことは犯罪であるとの認識が、多くの農家になのが残念だ。同じ考えの親子が存在することは**クローン禁止法**違反である。1000万円以下の罰金と懲役10年が待っている。

たとえば、好かれる農家の代表としては、農協の青年部を経験して理事、監事をする人がある。土地改良区、共済の役も似たような

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

ものだが、その意志を継いだ息子が彼らと同じ運命になるかどうかは、ご存じのことであろう。これほど親の七光の影響を受けない職業も珍しいのではないか。注目すべきはそのような親子の多くが国策に反対する言動をしているが、貧農、左翼農家からは高い評価を受けている点だ。私は、反面教師としてすばらしい実績を残し、彼らのようになってはいけなさと教えていただいたことに変感謝申し上げる次第である。そのような農家は全員、例外なく10年以内に淘汰すなわち、農村社会から消えている事実を知っているのは私だけではないはずだ。

まっ、このようなことを常日ごろから発言していたら敵が多くなるのも仕方がない。

農業、農家であるところの一国一城の主である自分の好き勝手をできる環境がメリットなのに、それを最大限実施できないのではモッタナイではないか。では、私はどのような生産者を目指しているのか？ というよりも、農家は目指さなければならぬのか？

農業は国家の要件である、国民、主権、領土の存在なしでは営農はありえない。その中に農水省があり、3兆円農業予算の存在がある。関東圏のような大きなマーケットが存在

しない北海道においては農業予算は即、収入と関係する。関東の農家が政府関与作物を作るなんてバカげている！ と発言する方がいるが、その方は私にお金をくれるわけではないのでまったく関係がない。

選択権は農家にあり

20年前、アメリカのポテトチップ工場長（元数学教授）が地域の農家とはコミュニケーションを持たない、持つ必要がない！ との発言に驚いたが、今となれば、まったくその通りだと痛感している。まして今の顔の見える作物って何だ？ 私の麦や大豆にどのような印刷技術で、このいい男を浮かび上がらせることができるのか！

自分の作った麦や大豆はどのように加工されようと、マーケットの流通に乗ることができるとは素材である。それに一般国民が食べる穀類と野菜の量、どちらが多いかは明白である。消費が多い方がすべてにおいて大切なのに、その重要性を理解せず違和感を強く持たせる学校教育や左翼教育は正しいのだろうか。やはりこの辺で農業者の質を問題にするべき時が来たのではないか。農村社会で多い、弟が兄よりも学歴が高く、学歴の低い兄が農家の跡継ぎになる環境を変える必要もある。

早い話、バカに農家をさせたらダメなのだ。当然国際化に向けた環境整備も大切である。私も大学で2週間、英語を勉強した高学歴者ではあるが、農村社会で英語をマトモに話すことができる者を見たことがない。

最近の若者は金髪、ブルーアイの素人をナンパできる能力はあるのだろうか？ ないな。そんな能力あったら人口増えてるよな。そろそろオランダ、ドイツ、デンマークのように英語が生き延びる最低限の手段であると気づかせる必要があるな。

自分の2人の子供たちは米国籍を持ち英語のみの授業を行なう学校に通学している。決して学力の高い学校ではないが、何と行っても日本を打ちのめした能力と世界で勝ち組みの考え方を学ばせる意義は大きい。子供の入学時の面談で校長がこのように質問した。「原爆投下を含めアメリカのしたことのすべてが正義です。もしこのことをご理解できない場合は入学を諦めて下さい」。

私は一言。“We understood every thing.Siri”

これで終わったのはつまらないので、もう一言発言した。

「米国の教育が世界で一番とは思わないが、少なくとも勝者の論理を教えてくれる学校はここしかない」

2人には将来、アメリカ海兵隊に

3年いて名誉除隊後、ミネソタ州立大学に4年間無料で学業を学ばせ、長女はFBIに入局後Xファイルを担当してもらいたい。息子は金髪、ブルーアイの嫁さんを連れて帰ってきて営農だ！ 農業は良くも悪くも家業として次の世代にDNAを受け継がせることができる商売だ。

1970年に始まった休耕、翌年からの転作事業は37年の歴史があり、100%正しく機能しているのかと問えば90%ではないか。

残り10%は北海道に水田が存在することだ。これは同じ緯度にある米国のアイオワ州に水田作りを推進させることと同じである。

ある農水職員が言っていた言葉を思い出す。「北海道にコメがなければ、農水の予算は半分でよい」。だが現実には、1868年の明治維新以前から函館周辺ではコメ作りが行なわれ、もち米に至っては稚内のすぐ南まで栽培されている。

その中で、自分は何をすべきか？ 少なくとも現在の農政には多くの選択肢がある。日本国家とケンカする理由もないので、農政のメニューである転作や品目横断にかかわる農産物を栽培することに全神経を注ぐことに何ら矛盾はない。

というところで、次回はその嫌われ方の実証例をお伝えいたします。